

8月本体着工
ストップ!

立野ダムは危ない!
ダムより復興に予算回せ

不測の事態に 対応できないダム

記録的豪雨や大地震など、従来の想定を超えた自然災害が現実が発生しています。治水対策を進める上では、「万が一の想定外の大災害が起こったとしても、決して住民に危険が及ばないようにする」という立場を基本にすえて、対策を講じるべきです。

「地盤は決して動くことはない」「放流孔の穴つまりは絶対に起こらない」と、万が一の事態を想定することを絶対に認めません。なぜならダムは、穴つまりや右岸・左岸のずれといった事態に対応できないために、想定外を想定すれば建設できなくなってしまうからです。けれども、「不測の事態は起こらない」という安全神話に依拠して、完成後一世紀の規模で持続し続けるようなダムを作れば、後世に不安な遺産を残すことになりはしないでしょうか。

多数の下流域住民がダム建設に反対



立野ダム反対の署名を提出し、住民代表とともに県と意見交換する山本県議(右)ら=6月20日

ダム反対の署名、 一万筆超える

ダムが制御不能となると、甚大な被害をこうむるのは熊本市など白川流域に住む住民です。一九五三年に発生した白川大水害では沿川一帯が氾濫し、死者行方不明者四二二人の大惨事となりました。

国や県は「流域自治体が立野ダムの早期完成を要望している」と言っているが、八月にもダム本体工事に入ろうとしています。要望の声をあげている首長や議会は、本当に住民の声を聞いているのでしょうか。

こんなに地盤が動いているのに ダム予定地の地盤は動かないのか?



- ①直下に断層の存在が確認された、東海大学阿蘇キャンパスの講義棟
- ②右岸と左岸がずれのために崩落した可能性がある(土木学会)とされた阿蘇大橋
- ③立野ダム建設予定地
- ④地盤がずれのために堤防の一部が決壊した大切畑ダム

あまりにずさんな安全性の検証

万一の事故起きれば

県は賠償の責を担う覚悟あるのか

ダム放流孔の穴つまりを引き起こす不安要素は、ダム上流部に広がる広大な人工林や、崩れやすい地層です。もしも、豪雨時に山腹崩壊が発生し、大量の土砂や岩石、流木がダムに押し寄せたらどんな危険な事態になるのでしょうか。

国交省は、「水理模型実験の結果、放流孔の閉塞が生じるようなことはなかったので問題はない」と強調します。また、山腹崩壊についても、「そうした事態を引き起こされないような対策をとる」と言います。

無料法律相談会のお知らせ

- 日時 ①7月24日(火) ②8月22日(水)
ともに13時30分より
 - 場所 山本のぶひろ生活相談所
(中央区渡鹿5丁目19-7)
 - 弁護士 久保田紗和さん(熊本中央法律事務所)
- 事前の予約が必要です。お問合せは362-5181まで。

「見学会に参加して」「ホームページ見ると」 これで丁寧な説明と言えるのか

立野ダム建設に不安を持つ住民らが、繰り返し国交省に公開質問状を届けていますが、「見学会を開催し説明している」「疑問等についてはホームページで回答している」として、返答すらしません。国も県も、地元で説明会の開催を求める住民の声にこたえるべきです。

山本県議は、実験や検証の十分さを指摘した上で、「国交省の言い分を支持し、詳細な検証を求めても背を向け、建設を容認した県職員の問題も不問に

できなくなる」として、万が一の事態が発生すれば、法に基づく賠償責任が生じる可能性についても言及しました。